無条件でした。何もありませんでした。何もなかったのです。ただ許されていました。どんな思いもすべて受け入れられていました。包み込まれている感じでした。受け入れてもらっていることがこんなに嬉しくて、許されている私は理屈も何もなくただ幸せでした。心を私に委ねていきなさい、私はあなたですよ、あなたは私ですよと、田池留吉の波動の中で私は生かされている存在でした。自分が間違ってきたことを認められることが嬉しかった。私は間違ってきましたとそう自分に伝えてやれることが嬉しいと思いました。

私は認めて欲しかったのです。自分の中の闇の思いを認めて欲しかったのです。私を受け入れて欲しかったのです。私はあなた、あなたは私ですと言って欲しかったのです。嫌い切り捨てるのではなく、ただあなたに気付いて欲しかったのです。あなたも許されています、あなたも受け入れてもらっていますと言って欲しかったのです。

何度でも何度でも私に心を向けて、自分に素直になっていくんですよとただ待ってくれている田池留吉の思いに触れました。ただ待ち続けてくれている思いがこんなにも温かく私を包み込んでくれているのかと思います。時間が与えられています。自分で受け入れることができるやさしい思いに気付いてくださいとその時間が私には与えられています。苦しいとき、悲しいとき、あなたの心の中に思いを向けていくんですよと私は伝えられていました。いつもいつもあなたの心の中で支えている私の存在に気付いてくださいと私はこの心の中で教えてもらっているのでした。